



治療薬の注意点知り きちんとして飲む工夫を

認知症と生きるために、医療的な支援は欠かせません。県薬剤師会が2月18日に大分市内で開いた県民公開講座「認知症は恐くない！」で、大分大学医学部付属病院薬剤部の佐藤雄己副薬剤部長が「認知症とくすり」と題して講演しました。認知症の治療薬や服薬の注意点、きちんと飲むための工夫など、内容の一部を紹介します。

二つのグループ 4種の薬を使用

治療薬として日本で使われるのは現在4種で、その作用により二つのグループに分けられます。一つは「コリンエステラーゼ阻害薬」といわれ、記憶や思考に関わる神経伝達物質のアセチルコリンの分解を抑えてアセチルコリンの量を増やし、神経活動を高める働きをします。ドネペジル、ガランタミン、リバスチグミンの3種があります。貼り薬のリバスチグミンを背中などに貼る際、「タクトイールケア」と



いって手のひらでマッサージすると、コミュニケーションが円滑になり、安心感を与えたり、服薬を巡るトラブルを減少させる効果があるとい

われています。もう一つは脳内の神経伝達物質であるグルタミン酸の過剰な放出を抑え、神経細胞を保護し記憶学習機能障害に効果がある薬で、メマンチンがあります。作用の違う二つのグループの薬を併用することもあります。

副作用や症状の変化に戸惑いも

認知症の薬を服用した後に副作用や症状が変化したりして本人や家族が戸惑う場合には、服薬について医師や薬剤師としっかり話し合うことが大切です。家族は、どうしてもできなくなったことを目にされますし、治療によって変化がないことを負担に感じる人もいます。できることを維持して、生活を支えるという視点が大切です。



市民約100人が参加

現在の日本では、年齢を重ねるとともに服用する薬が増えています。薬が増えると副作用も増え、飲み残しや飲み忘れといった残薬の問題は喫緊の課題です。上手な飲み方を紹介しましょう。錠剤は下を向くとのどに引っかかることがあります。斜め上を見ながら飲むといいです。カプセルは、下を向きながら飲むといいです。オブラートは、包んだ後に一度水にさつとくぐらせ



講演する佐藤雄己氏

てから飲むとスムーズに飲みます。市販されている服薬ゼリーなども利用してみてください。



間違った情報に振り回されずに

かかりつけ薬局で薬を一元管理できるのは、よい面がたくさんあります。医師とかかりつけ薬局が連携して指導を続けていくと、薬を飲めていない患者の数は減ってきます。認知症は、正しい病状

と何を目標に治療を行っているのか理解するよう努めることが重要です。情報収集は大事ですが、間違った情報に振り回されないようにしましょう。認知症治療はまだ不十分な点も多いですが、確実に進歩しています。信頼できる医療者と共に希望を持って治療に取り組んでいきましょう。

「みんなで支えよう！認知症シリーズは、今回で終了します。ありがとうございました。」